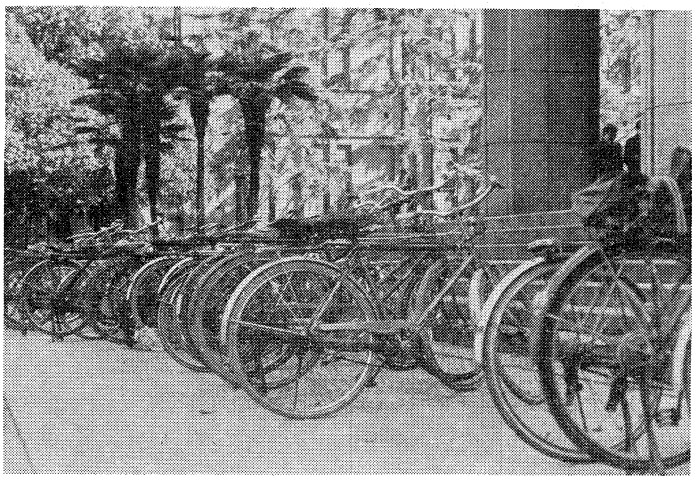
○ **Diccionario Enciclopedico U.T.E.H.A. Union Tipografica Editorial Hispano Americana, Mexico. 1950-1952. 10v. il.** （スペイン語で書かれたメキシコの百科辞典）

アルファベット順に約500,000項目が収録されている。範囲は地理，伝記，科学等の全般にわたっているが，特にメキシコとラテンアメリカに重点がおかれている。

Apendice（補遺）2冊が1964年に出版され巻末には物故者の命日表が附随している。



図書館とマイ・カー

図書館を利用して

私自身図書館をそう多く利用したわけでもなく，またその少ない図書館の利用といっても，閲覧室に幾度か行ったのみである。それでも長い四年の間には，図書館についての色んな思い出も残っているし，そこには四季折々の姿があった。

教養時代にこの閲覧室に訪ずれて最初に感じたのは，まず部屋が大きかったことである。教養部にある二，三の図書室とはまるでちがっていた。そのころのフラフラと遊び廻っていた私の気分とはウラハラに，みんな真剣な顔をして，本を読んだり，書きものをしている。京大にもこういう場所があったのだと，気がついた（甘かった！）。それでそういう気分に私も染まりたくなったのか，時折は足を運ぶことになった。

（春の図書館）真剣な表情で勉強している人もいるが，たいていは眠そうである。春には試験もないので，みんなノンビリムードである。時々ふっと顔を上げては，腕時計をのぞきこみ，また安心したかのように眠りはじめる。そして時間が来ると，最初に開いたページを閉じて，いそいで出てゆく。

（夏の図書館）去年から冷房が入った。それで夏の図書館は人気絶頂である。私もそれにあやかって，だいぶ利用させてもらった。何もすることがなかったら図書館へゆく。小説を読んだり，実験のレポートを書いていたりすると，夏の暑い一日が自然と過ぎてゆく。

（秋の図書館）試験が近づく。朝早くから室内が満席になる。昼ごろ行くともう全然席がない。しかしジッと待っていると，だれかがふと席を立つ。そこへ間髪をいれずに座りこめばもうシメたもの。

（冬の図書館）冬の図書館もわりあい利用者は多い。外ですることが少ないからかもしれない。それが，だんだん暖かくなり，学年の終りころになると，あたりの雰囲気がかわってゆく。来たるべき春のせいか，みんながソワソワとしだす。利用者はだんだん減るようである。